

なぜ、今、「やれば、できるさ！」なのか？

DVD「やれば、できるさ！」製作の意図は、怒りと熱気にあふれた2014年の6.26緊急集会《Nothing About Us Without Us（私たち抜きに私たちのことを決めないで）生活をするのは普通の場所がいいSTOP! 精神科病棟転換型居住系施設！！》の東京・日比谷野外音楽堂での「熱気」を伝えるためです。

この集会の意義は大きく、歴史の転換点を予感させるものでした。わずか1か月の取組みで全国から3200人が結集したパワーの根源は、実行に移されようとしている「精神科病棟転換型居住系施設」への疑問と、人権を守ろうとの強い思いです。そのエネルギーとパッションをストレートに伝えたかったのです。

発言に立った、長期入院を強いられた当事者のみなさんの勇気と決意が参加者の心を揺さぶりました。応援に駆けつけた関係団体のメッセージなどを基礎とし、2014年11月13日の衆議院議員会館での「院内集会」の記録や、日本弁護士連合会の声明、全国各地の新聞社の社説などの批判論も伝えています。

そして、2014年10月、JDの藤井克徳代表が、精神病院を廃止したイタリアのトリエステを訪問した際の同行記録映像、ロベルト・メツィーナ精神保健局長（WHO 調査研修協働センター長）へのインタビューは貴重な証言です。さらに、藤井代表による、マリア・ソレダード・レイエス国連・障害者権利委員会委員長への単独インタビューも織り込みました。

※スタッフは少数精鋭 【中橋真紀人・製作プロデューサーの裏話とともに】

全体像も見えないうちに、とにかく集会の撮影を中村和彦さんに依頼した。彼は現在、まだ世に広く知られていない電動車椅子サッカーをカメラで追う作業を共同で進めている仲間である。彼は、独りカメラ機材を抱えて、日比谷野音に出かけ会場を駆け巡った（通常、こうした記録を収録する際は、数名のスタッフで、2台以上のカメラを回すのだが…! ?）。

◆◆◆◆◆◆◆◆

藤井さんときょうされん、JD関係者一行のトリエステ訪問では、現地の精神保健分野の最高責任者であるメツィーナ精神保健局長との面談が確定していたので、そのインタビュー収録が実現した。訪問施設の内部は撮影不可だが、事前の調整で、藤井さんの質問に答える形で特別に許されたのである。

丸2日間の見学取材ではメツィーナ氏の講義と様々な医療や福祉の施設訪問での丁寧な解説を受けた。最後の訪問先となった郊外のデイケア・レクリエーション施設では、当事者メンバーによる楽器演奏の“歓迎”を受け、撮影もOKされた。帰国後は、デイケアの映像を入手することもでき、11・13院内集会と関係者へのインタビュー、12月4日のJDF(日本障害フォーラム)10周年フォーラムに迎えたマリア・ソレダード・レイエス国連・障害者権利委員会委員長の単独インタビューも収録できた。

◆◆◆◆◆◆◆◆

それからは中村さんの苦闘の始まりである。40分間で、勉強会などで使いやすいようにまとめてほしい、との要請に応えるべく、連日連夜の作業…。テーマの難しさ、材料の少なさ、編集時間の制約など、厳しい条件ばかりの中で、製作サイドの苦闘が続いた。この経過の中の9月、6・26集会の発言も克明に収録したJDブックレット2「病棟から出て地域で暮らしたい」の発刊は作業に大きく役立った。

※感謝をこめて♥♥♥♥

このDVD製作の無謀な計画に協力してくれたみなさんに深く感謝する。

撮影&ディレクターの中村さんはもとより、全般的に助言くださった古賀陽一氏（『こんばんは』『9nine』）、ナレーションの長谷川葉月さん（演劇「ふるさとをください」に出演）、録音スタジオを確保してくれた映広スタジオの新井英夫氏、イタリア語の翻訳に協力してくれた森本宣彦氏（「麦の郷」でお菓子作りアドバイザー）などなど。

また、6・26集会の最後に登場して会場を盛り上げた「ハルシオン」の歌も大きく貢献してくれた。♪イタリアの仲間と歩いてゆけばいい♪（作詞・作曲：塚本正治氏）という素敵な歌はこのDVDのために生まれたかのように聞こえるだろう。そして、『人生、ここにあり!』の配給会社・新日本映画社—この映画の原題が「やれば、できるさ！」なのである—。

そのほか、協力してくださった多くの方々に、そして、これを観てくださった貴方に深く感謝します。

このDVDが全国各地のすみずみで上映されることが、世論へのアピールとなることを信じて…!!

【企画・NPO法人日本障害者協議会(JD)】